

ふるさと教育の実践報告 II

～ まちなかをキャンパスに ～

令和4年4月27日 岐阜県立関高等学校

地域とともに、まちづくりに関わる関高生

◇ ほらどキウイを未来につなごうプロジェクト JAめぐみの 関市 関係企業 ほか

関高校は、関市洞戸の特産品キウイの増産計画、「ほらどキウイを未来につなごうプロジェクト」(略称:ほらプロ)の協力団体です。ほらプロは、JAめぐみのを中心に、関市・関高校・十六銀行・イオン・岐阜県生協等の団体が参加する農業振興・地域活性化に向けた取り組みです。関高生の提案したドレッシング・焼肉のタレは、現在、とれたた広場で販売されています。



◇ Osora (まるそら) ドーナツ 関市市民協働課 市内飲食店 ほか

関高生が、他校の生徒や飲食店とともに考案した関市の特産品「円空いも」(里芋)を生かしたドーナツです。風味や色を出すために、里芋以外の関市の様々な特産品を使っています。飲食店の協力を得て、市内のイベントで販売すると、あっという間に売り切れる人気商品となっています。

◇ SEKI米粉倶楽部 JAめぐみの PLUS 関市農林課 NPO法人 ほか



地元米の生産振興、地産地消の推進、環境保全のため、本校家庭クラブで取り組んでいるプロジェクトです。毎年、家庭科の夏季休業中の課題として米粉レシピコンテストに取り組み、優秀作品については市内飲食店のメニューに採用されるなど、年々、実績を上げています。令和3年度家庭クラブ全国大会では、本活動は、全国2位相当の表彰を受けました。こうした取り組みにより、本校は、本年度より、JAめぐみから「農業の応援団特別団員」の委嘱を受けました。

◇ ぶうめらん・本町探偵団 NPO法人ぶうめらん 本町商店街 ほか

ぶうめらんは、関市内でまちづくりのコーディネーターを務めているNPO法人で、フリーペーパー「ぶうめらん」「高校生ぶうめらん」を発行しています。毎年、関高生数名が「高校生ぶうめらん」の記者・編集者として活動し、最近では、市内のイベントに「本町探偵団」の名前で登場し、様々な世代が楽しめるクイズラリーも行っています。



関市内外の企業と高校生をつなぐオンラインイベント(関ジモト大学、ぶうめらん主催)は、本校探究活動のプログラムとして採用しています。

◇ VSプロジェクト 関市市民協働課 本校生徒を含む市内在住・通学の高校生

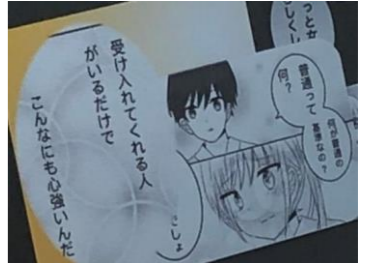
VSプロジェクトは、市内在住もしくは市内の高校に通学する高校生を対象とした活動です。まちづくりに関するオリジナルな活動、市内各所の見学やワークショップ、関市から依頼されたミッション型活動など、盛りだくさんの活動を続けています。昨年度は、市内飲食店との共同提案で、地元素材を生かした関オリジナルのコラ(koko コーラ)をイベントで発売して好評を得ました。

この活動の特色は、学校の枠を超えた交流にあります。学校間の交流をめざすこうした活動は、関市・美濃加茂市・各務原市の三市連携事業の中でも行われています(三市連携高校生交流事業)。



◇ ダイバーシティSEKIシンポジウム 関市市民協働課 中部学院大学 ほか

関市は、性的少数者の権利を守るため、「LGBTフレンドリー宣言」を発表しています。この動きに呼応した関高生有志の発案で、ダイバーシティSEKIシンポジウムが行われるようになり、今年で4回目を迎えます。この間、子どもたちへの啓発をめざした紙芝居やマンガ、パンフレットが制作され、市内の小中学校にも配布されています。すでに本校では、制服の「ジェンダーフリー化」を進めていますし、今年度は、4月に始まったパートナーシップ宣誓制度の周知のための活動を推進しています。



◇ 戦争の記憶、戦争遺跡の記録化 地域住民の皆さん 関市文化財保護センター ほか

関市大杉、美濃加茂市稲辺、坂祝町深萱にかけての台地には、第二次大戦末期の陸軍飛行場がありました。滑走路跡地の周辺の山々には、今も地下壕や塹壕が残されています。関高校では、こうした戦争遺跡の計測や写真撮影などの方法で記録化し、さらに当時を知る高齢者の方々への聞き取りを進めています。学びの成果を学会やコンクールで発表し上位入賞を果たしたほか、現在は、戦争の記憶を若い世代に伝えるための小中学生向けパンフレットを企画・制作しているところです。



◇ 観光ツアー提案、歴史マンガの制作 富加町・美濃加茂市・坂祝町 ほか



昨年、織田信長の東美濃征服作戦をテーマにした観光提案を関高生が立案、「みのかも定住自立圏」の歴史イベントで発表しました。コロナ禍の中でも関係自治体や企業の協力で、高校生も企画に加わり、郷土史を題材とした歴史マンガの続編制作や、日本ライン下りの復活計画が進められています。さらに、このプロジェクトは、犬山市や各務原市、そして関市を含む広域に広げ、木曾川から長良川を含む地域での観光開発を進める構想、アフターコロナを見越したインバウンド誘致にもつながろうとしています。

◇ 地域交流・観光案内施設を活用したイベント せきてらす・本町BASE ほか



昨年度、地域住民や観光客が気軽に利用できる公共施設、せきてらすと本町BASEが相次いでオープンしました。関高生は、探究活動の成果発表(まなびかふえ)や文化系部活動有志によるクリスマス・ミニ文化祭のほか、オリジナル企画のマルシェやスタンプラリーなどのイベントを自ら企画し、まちの方々と協力し合って実践しています。

課題解決の道を探る探究活動から、より実践的な社会活動へ。関高生の活動は、学校からまちなかへと広がりつつあります。

◇ 自治体への政策提言へ 関市 富加町 美濃加茂市 ほか

今年度は、関市より、第五次総合計画(後期、2023-27)への政策提案の機会を与えていただきます。現在、生徒有志はそれぞれが練り上げた政策提案を関市に提出しているところです。前掲の通り、「みのかも定住自立圏」の自治体に向けた観光提案も、前に進みつつあります。こうした機会を自治体で用意していただくことにより、探究活動の研究蓄積は、まちづくりに関与する具体的な実践へ、さらには政策提言へと発展しようとしています。

今年度4月、本校オリジナルの探究活動テキストが、NPO法人ぶうめらん・オンラインプレゼンテーション協会の協力により完成しました。このテキストを手にした高校生が、まちに飛び出し学びを深める。今年はそんな姿も見られることと思います。

